

2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

○事業の目標値

(坊勢コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：25人

(家島コミュニティバス) 1日あたりの乗車人員：50人

3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

(1) 取組経緯

・コミュニティバス概要		
	坊勢コミュニティバス	家島コミュニティバス
事業手法	市町村運営有償運送(交通空白輸送)	市町村運営有償運送(交通空白輸送)
運行の担い手	坊勢区会(地元自治会)	宮区会(地元自治会)
ルート	島内巡回ルート	宮地区・真浦地区を中心とした2ルート ※真浦ルートのみ、午前の第3・4便及び午後の第9・10便、第13～16便は一部延伸
運行日・便数	月～水・金曜日は13便 木・土曜日は7便	月～金曜日：16便 (6～9月の土曜日：6便)

(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
坊勢コミュニティバス	姫路市	H24.10.1～	フ	運行系統名：坊勢循環 坊勢島内の「サービスセンター前～西ノ浦～サービスセンター前」を巡回運行
家島コミュニティバス	姫路市	H27.4.1～	フ	運行系統名：真浦線1、真浦線2、宮線 家島島内の真浦地区を中心に真浦線(老人福祉センターを經由する便は真浦線1、同センターを經由しない便は真浦線2)、宮地区を中心に宮線を運行

【種別】 幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、推：計画推進事業
再策：再編計画策定事業、再推：再編計画推進事業

その他補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

(3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
坊勢コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ●各世帯に時刻表チラシを配布による周知 ●姫路市所管キャラクターによるダイヤ改正の周知 ●自治会による島内住民への運行情報の提供 	事業目標の達成
家島コミュニティバス	<ul style="list-style-type: none"> ●各世帯に時刻表チラシを配布による周知 	事業目標の達成

4. 具体的取組に対する評価

【坊勢コミュニティバス】

目標 25 人/日に対し、実績 44.8 人/日であり、目標を達成できた

【家島コミュニティバス】

目標 50 人/日に対し、実績 37.8 人/日であり、目標を達成できなかった。

(原因)

島内の急激な人口減少（島外への転出も含む）、よく利用されていた高齢者の死亡等が主な原因と考えられる。また、コロナ禍における利用者減少も影響したと考えられる。

	H27.9末	H28.9末	H29.9末	H30.9末	R1.9末	R2.9末
合計	3,226	3,094	2,959	2,780	2,695	2,579
(内訳)						
65歳以上	1,269	1,285	1,289	1,291	1,274	1,261
15歳～64歳	1,727	1,612	1,504	1,347	1,294	1,195
14歳以下	230	197	166	142	127	123
増減(前年度比較)	-	-132	-135	-179	-85	-116

出典 姫路市統計情報

表 家島コミュニティバスにおける利用者数推移（日平均乗車人員）

対象期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
令和元年度	44.5	42.6	46.5	42.1	44.3	43.0	45.7	40.4	38.4	42.6	45.2	41.5	43.0
令和2年度	44.8	42.9	39.9	37.2	40.4	33.9	29.3	32.2	34.6	36.5	42.9	39.5	37.8
前年比	100.8%	100.7%	85.7%	88.2%	91.1%	78.7%	64.3%	79.8%	90.2%	85.7%	94.8%	95.1%	87.9%

5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
利用者が減少傾向にある。	<p>利用者アンケートや運転員連絡会議等を通じて、利用者ニーズの把握に努め、利用促進に繋がる運行ダイヤを検討していく。</p> <p>また、新たな利用者の獲得に向け、MM等の利用促進活動にも取り組んでいく。</p>

姫路市地域公共交通会議陸運分科会（これまでの経緯）

1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>目標・効果について、達成できなかった路線はあるものの、事業実施の適切性については評価できる。</p> <p>今後も、利用状況の把握・分析により、ニーズに対応した運行内容の見直しや利用促進に取り組むことで、更なる利用者の増加につなげ、目標の達成、それによる持続可能な公共交通ネットワークが構築されることを期待する。</p>	<p>（坊勢地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前年度に要望があった新設道路への乗入れについて、アンケート調査を基に、ダイヤ改正の検討を行った。 ●作成したダイヤ改正案について、運転員や運行管理者と意見交換を通じた改善点を整理し、修正を加えた。 ●各世帯への時刻表チラシ配布及び姫路市所管キャラクターによる周知を行った。 ●来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すぱあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ●令和2年10月に午前の一部時間帯について左回りの運行を加えたダイヤ改正を実施し、利用改善に取り組んでいる。 ●ダイヤ改正に伴う課題や定期船接続等の影響を検証し、必要に応じてダイヤの再調整等を行う。
	<p>（家島地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前年度に要望があった老人福祉センターへの午前中の運行について、アンケート調査を基に、ダイヤ改正を検討した。 ●作成したダイヤ改正案について、運転員や運行管理者と意見交換を通じた改善点を整理し、修正を加えた。 ●各世帯に時刻表チラシを配布して周知を行った。 ●来訪者への情報発信のため、ジョルダン、駅すぱあと、ナビタイムへの情報提供を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・利用者の意見に今後も柔軟に対応し、持続性の高い運行見直しを図る。 ●目標達成に向け、MMの実施、運行見直し等の新たな利用者の掘り起しなどを通じ、利用改善に取り組んでいく。

2. アピールポイント、特に工夫した点など

- 地域との協働により、運行計画を立案し、運行についても行政と自治会で連携して実施している。
- 自治会が運行を担い、地域住民が運転しているため、利用者との距離が近く、地域に密着した運行を行っている。また、自治会から地域住民へ直接運行情報を提供するなど、地域による自主的な取り組みも行われている。
- 定期船との接続時間を考慮し、円滑な乗継が出来るよう調整している。